

## 平成26年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年8月8日

上場取引所 東

上場会社名 ユニバーサルソリューションシステムズ株式会社  
 コード番号 3390 URL <http://www.u-s-systems.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理本部長  
 四半期報告書提出予定日 平成25年8月8日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 伊奈 聡  
 (氏名) 牧島 明  
 配当支払開始予定日 未定

TEL 03-6892-3864

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年3月期第1四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第1四半期	723	16.1	91	—	88	—	74	—
25年3月期第1四半期	623	△46.1	△143	—	△142	—	△157	—

(注)包括利益 26年3月期第1四半期 83百万円 (—%) 25年3月期第1四半期 △161百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円銭	円銭
26年3月期第1四半期	161.62	—
25年3月期第1四半期	△411.37	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円銭
26年3月期第1四半期	1,092	136	1.3	30.72
25年3月期	646	△19	△9.3	△130.90

(参考)自己資本 26年3月期第1四半期 14百万円 25年3月期 △60百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円銭	円銭	円銭	円銭	円銭
25年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
26年3月期	—	—	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

26年3月期の配当につきましては、未定であります。配当については、決定次第速やかにお知らせいたします。

### 3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円銭
第2四半期(累計)	1,200	24.0	95	—	90	—	75	—	163.10
通期	2,000	8.1	140	—	120	—	100	—	217.47

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想の修正については、本日(平成25年8月8日)公表いたしました「第2四半期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有

新規 2社 (社名) 株式会社ビューティーホールディングス、除外 1社 (社名)  
株式会社ベストリザーブ

(注) 当四半期連結累計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。  
詳細は、[添付資料]P. 4「当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期1Q	459,832 株	25年3月期	459,832 株
② 期末自己株式数	26年3月期1Q	— 株	25年3月期	— 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期1Q	459,832 株	25年3月期1Q	383,361 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく財務諸表の監査手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	4
4. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

#### 〈業績の概況〉

当第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日～平成25年6月30日）は、欧州における財政問題の長期化や新興国経済の成長鈍化により世界経済は不透明な状況となりましたが、我が国経済においては、財政・金融政策などにより、円高是正や個人消費の一部持ち直しの動きがみられるようになりました。

このような事業環境のもと、当社グループは、飲食事業者向けASPサービスや、スマートフォン・タブレット端末を利用したPOSシステムの販売を中心に、お客様のニーズにお応えする総合的なソリューション提案を行ってまいりました。

また、前期より経営の立て直しと業績の早期回復を目指し、経営資源の集中やコスト削減等を実施する一方で、飲食業界のみに依存しない新たな収益基盤構築のため、集客・予約サービスなどの面で既存事業とのシナジーが発揮できる美容業界とホテル業界という新たな事業領域に進出いたしました。さらに、Web販路によるスマートフォンを中心とした携帯電話等の販売も堅調に推移いたしました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は723百万円（前年同期比16.1%増）となり、営業利益91百万円（前年同期は営業損失143百万円）、経常利益88百万円（前年同期は経常損失142百万円）、四半期純利益74百万円（前年同期は四半期純損失157百万円）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

なお、前連結会計年度をもって「人材事業」からは撤退しており、また、当第1四半期連結会計期間より、従来の「システム事業」と「直販事業」に加え、新たに予約サイトの運営などのサービスを提供する「メディア事業」を展開していることから、これら3事業を報告セグメントとしております。

#### ①システム事業

システム事業セグメントは、飲食事業者向けのASPサービスや、スマートフォン・タブレット端末を利用したPOSシステムの販売を中心に、店舗運営をサポートするソリューション提案を行っております。飲食店向けに販売情報を収集して分析するPOS・オーダーエントリーシステム「ダイニングPOS」並びに「ダイニングレジスター」の改良を加えながら、販売に注力してまいりました。

その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は281百万円（前年同期比44.9%増）、セグメント利益は71百万円（前年同期比102.2%増）となりました。

#### ②メディア事業

メディア事業セグメントは、美容業界やホテル業界に特化した予約サイトの運営や広告サービスを行っております。各サイトへの掲載社数が順調に推移し、国内の宿泊予約サイト「ベストリザーブ・宿ぷらざ」では、特にモバイルでの予約数が拡大いたしました。

その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は165百万円、セグメント利益は25百万円となりました。

#### ③直販事業

直販事業セグメントは、Web販路によるスマートフォンを中心とした携帯電話端末や周辺機器・モバイルデータ通信端末の販売を行っております。昨今は、高速データ通信網の普及が進み、サービス競争もますます激しさを増しております。そのような中、独自のサービスを展開することによって、スマートフォンを中心とした携帯電話等の販売が堅調に推移いたしました。

その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は282百万円（前年同期比19.2%減）、セグメント利益は40百万円（前年同期はセグメント損失91百万円）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報  
(総資産、負債及び純資産の状況)

	前連結会計年度末	当第1四半期連結会計期間末	増減
	百万円	百万円	百万円
総資産	646	1,092	445
負債	665	955	289
純資産	△19	136	156

総資産は、主に現金及び預金の増加により、前連結会計年度末に比べて445百万円増加し1,092百万円となりました。

負債は、主に長期借入金の増加により、前連結会計年度末に比べて289百万円増加し955百万円となりました。

純資産は、主に四半期純利益74百万円を計上したことにより、前連結会計年度末に比べて156百万円増加し136百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する定性的情報

連結業績予想につきましては、平成24年5月17日の決算時に公表いたしました第2四半期連結累計期間の連結業績予想を修正しております。詳しくは、別途公表致しました「第2四半期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当第1四半期連結会計期間より、新たに株式を取得した株式会社ビューティーホールディングス及びその子会社である株式会社アップヒルズ並びに株式会社ベストリザーブを連結の範囲に含めております。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

## 3. 継続企業の前提に関する重要事象等

### (事業等のリスク)

当社グループは、前連結会計年度において継続的に営業キャッシュ・フローのマイナスとなり、継続して営業損失及び当期純損失を計上した結果、前連結会計年度末は債務超過となったため、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況となっておりました。当第1四半期連結累計期間においては、既存事業の見直しと新たな事業領域での事業基盤構築による収益の確保によって損益が改善し、債務超過を解消しております。しかしながら業績が回復して間もなく、経営基盤の再建途上であると判断していることから、引き続き継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在していると認識しております。

当該状況を解消すべく、当社グループでは下記の対応策を実施することにより、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。

#### ①新規事業領域の開拓による収入源の確保

当社グループは、飲食業界を中心にシステム開発・運営を軸にしたサービス提供を行ってまいりましたが、今後の収益拡大を目指すに当たって、飲食業界だけではなく新たな事業領域の開拓が必要不可欠であるとの認識から、美容ポータルサイトなどを運営する株式会社ビューティーホールディングス及び宿泊予約サイト「ベストリザーブ・宿ふらぎ」を運営する株式会社ベストリザーブを連結子会社といたしました。株式会社ビューティーホールディングス及び株式会社ベストリザーブがそれぞれ保有するメディアサイトにて集客や予約サービスの提供を行っており、当社グループの新しい収益源となっております。

また、連結子会社である日本企業開発支援株式会社では、同社が運営する起業家支援サイト「独立支援.net」の運営及びスマートフォンやタブレット端末等の紹介を行う「おとくケータイ.net」等を展開しており、当社グループの既存事業の販売網拡大にもつながっております。

今後はさらに、当社グループがこれまでに築きあげてきたスマートフォンやタブレット端末を用いたソリューションサービスを、これら新規事業領域へと展開していくことで、当社グループ全体の収益向上となることを期待しております。

#### ②コストの削減

事業規模に見合った人員体制を維持するとともに、引き続き諸経費削減の取組みを徹底してまいります。

#### ③資金調達

当面の運転資金は確保できておりますが、親会社である株式会社光通信に対して当社グループの状況を適時に報告して良好な関係を維持し、同社からの継続的な財務支援が得られるよう、資金繰りの安定化に努めてまいります。

4. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	72	349
売掛金	319	390
たな卸資産	0	1
その他	77	122
貸倒引当金	△7	△12
流動資産合計	463	852
固定資産		
有形固定資産	18	25
無形固定資産		
のれん	50	85
その他	41	50
無形固定資産合計	92	135
投資その他の資産		
投資有価証券	34	34
破産更生債権等	184	203
その他	36	43
貸倒引当金	△184	△203
投資その他の資産合計	71	77
固定資産合計	182	239
繰延資産	0	0
資産合計	646	1,092
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	97	57
1年内返済予定の長期借入金	107	154
未払金	237	358
未払法人税等	12	11
賞与引当金	9	8
ポイント引当金	—	5
その他	16	37
流動負債合計	481	635
固定負債		
長期借入金	181	317
その他	2	2
固定負債合計	184	320
負債合計	665	955
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,454	1,454
資本剰余金	1,973	1,973
利益剰余金	△3,488	△3,414
株主資本合計	△60	14
少数株主持分	40	122
純資産合計	△19	136
負債純資産合計	646	1,092

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
売上高	623	723
売上原価	417	358
売上総利益	206	365
販売費及び一般管理費	349	274
営業利益又は営業損失(△)	△143	91
営業外収益		
貸倒引当金戻入額	—	1
その他	8	1
営業外収益合計	8	2
営業外費用		
支払利息	4	4
その他	2	0
営業外費用合計	6	4
経常利益又は経常損失(△)	△142	88
特別利益		
投資有価証券売却益	0	—
負ののれん発生益	—	3
特別利益合計	0	3
特別損失		
固定資産除却損	14	—
特別損失合計	14	—
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△156	92
法人税、住民税及び事業税	2	8
法人税等合計	2	8
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△158	83
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△0	9
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△157	74

(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失 (△)	△158	83
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2	—
その他の包括利益合計	△2	—
四半期包括利益	△161	83
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△160	74
少数株主に係る四半期包括利益	△0	9

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## I 前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	システム 事業	人材 事業	直販 事業	計		
売上高						
外部顧客への 売上高	191	82	349	623	—	623
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	3	0	0	4	△4	—
計	194	83	349	628	△4	623
セグメント利益 又は損失(△)	35	△30	△91	△87	△56	△143

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△56百万円は、セグメント間取引消去3百万円、各セグメントに配分していない全社費用△59百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## II 当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	システム 事業	メディア 事業	直販 事業	計		
売上高						
外部顧客への 売上高	276	165	282	723	—	723
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	5	0	0	5	△5	—
計	281	165	282	729	△5	723
セグメント利益	71	25	40	137	△46	91

(注) 1 セグメント利益の調整額△46百万円は、セグメント間取引消去△0百万円、各セグメントに配分していない全社費用△46百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期連結会計期間より、「人材事業」を廃止し、「メディア事業」を新たに追加しております。これは、前連結会計年度において「人材事業」から撤退したこと、当第1四半期連結会計期間に株式会社ビューティーホールディングス及び株式会社ベストリザーブを連結子会社としたことに伴い、当該連結子会社が営む「メディア事業」に進出したことによるものであります。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間より「システム事業」、「メディア事業」及び「直販事業」の3つを報告セグメントとしております。